学校経営方針

（菊川市立小笠東小学校）

1　学校教育に求められるもの

国・県・市の取組

(1)　国の教育振興基本計画　平成 30 年度(2018)～令和４年度(2022)
義務教育終了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育て、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てる。

(2)　県の教育振興基本計画　令和４年度(2022)～令和７年度(2025)基本目標「有徳の人」の育成～誰一人取り残さない教育の実現～(**知性･感性･身体能力など自らの個性に応じて「才」を磨き磨き自立を目指す人、**多様な生き方と価値観を認め自他を大切にしながら「徳」を積む人、「才」を生かし「徳」を積み社会やや人のために貢献する「才徳兼備」の人）個別最適な学び･協働的な学び･探求的な学びの深化、ICT 等の活用による新たな学びの展開

(3)　菊川市教育大綱→(平成 29 年度から令和７年度までの９年間)
基本目標「豊かなこころを育むまち」
学校教育「たしかな学力と思いやりに満ちた学校」づくり基礎・基本の定着と主体的に課題を見つけ、自ら学び自ら考える、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成(一人一人が生きる教育、ICT 環境を活かした魅力ある授業づくり、思いやりに満ちた学校づくり、中学校区等を核とした学びの環境づくり、こころざしを持った頼もしい教職員の育成)
菊川市の教育「きくがわ 21 世紀型授業」菊川市小中一貫教育「学びの庭」構想
ICT 環境を最大限に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

2　学校の概要

(1) 地域

昭和 29 年 3 月 31 日、平田･小笠・南山の三か村が合併して「小笠村」となり、さらに平成 17 年 1 月 17 日に菊川町と小笠町の合併により、「菊川市」となる。牧之原台地の西側に位置し、東は牧之原市、南は御前崎市と隣接する。東西 7.3ｋｍ，南北 9.8ｋｍ、面積 30.3 平方キロメートルで、大半は、農地や山林である。平坦部では稲作、施設園芸（イチゴ・トマト・メロン）が行われ、東部から南部にかけての山間部では茶の生産が行われている。近年、平坦部への工場進出が進み、第二次産業や第三次産業との兼業化が進んでいる。また、新設の道路が南北につながる計画があり、周辺地の宅地化、商業地化が予想される。

(2) 沿革

明治６年４月１日	高橋学校の分校として、赤土・棚草・丹野に各一校を設置 仮校舎に安興寺・雲林寺・善勝寺を充てる
明治８年１月８日	赤土・棚草・丹野の分校を合併し、「川上小学校」を設立 学年は上等・下等とし、校舎は善勝寺を充てる
明治11年10月21日	校舎を現在地に新築
昭和16年４月１日	国民学校令により、「小笠村立小笠国民学校」と改称
昭和22年４月１日	学制改革により「小笠村立小笠小学校」と改称
昭和29年３月31日	町制施行により「小笠町立小笠東小学校」と改称
昭和38年10月15日	プール完成（25ｍ×10ｍ・10ｍ×７ｍ）
昭和39年２月28日	校歌制定
昭和43年４月９日	各教室にテレビを設置。
昭和50年３月２日	体育館新築落成。創立百年祭挙行
昭和54年12月３日	新校舎落成（鉄筋コンクリート３階建）
昭和63年３月５日	校舎増築(多目的ホール・図書コーナー)既存校舎内部改装（図工室・特殊学級・談話室）落成
平成５年１月６日	新プール起工式
平成５年６月18日	新プール落成式
平成７年11月22日	創立120周年を祝う会（児童会主催）
平成９年４月１日	特別支援学級（１組）再設　フレンドルーム（外国籍児教室）開設
平成10年６月22日	校舎増築工事及び既存校舎一部改築工事着工
平成10年12月24日	校舎増築工事(図工室・ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ室)、既存校舎一部改築工事　（生活科室・職員更衣室）完成
平成12年９月20日	小笠東小学校のホームページ開設。
平成13年４月７日	放課後児童クラブ開設式（ケロちゃんハウス）
平成15年４月１日	情緒学級（花組）新設
平成17年１月17日	町合併により「菊川市立小笠東小学校」と校名変更
平成17年10月12日	創立130周年を記念して、航空写真撮影
平成18年10月31日	パソコン室整備（新規パソコン40台）
平成19年12月21日	職員用パソコン配置
平成21年 3月 4日	新体育館落成式
平成21年 3月28日	体育館併設ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ（愛称：くすりん）落成式
平成22年 3月24日	各学級にﾃﾞｼﾞﾀﾙ TV、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ設置
平成27年 5月 8日	創立140周年を記念して、航空写真撮影
平成27年 8月26日	タブレット55台導入（２階談話室に保管庫を設置）
平成27年12月17日	二宮金次郎像建立記念式典（小笠東地区教育振興会より二宮金次郎像の寄付を受ける）
平成29年11月29日	菊川市教育委員会指定 ICT 活用研究発表会開催
令和元年６月１日	普通教室空調工事完了
令和２年５月１日	YouTube チャンネル　寺子屋くすりん開設　ぺこりあいさつ開始
令和３年４月１日	一人一台端末ギガスクール構想開始
令和４年10月31日	大規模耐震工事完了　児童会紹介チャンネルペコチューブ開設

(3)学区

市の南東部に位置し、丹野川流域の平坦地では稲作、牧之原台地とそれに連なる山間部では、茶の生産が行われている。近年、地域への工場進出により、専業農家が減少し、兼業農家や勤め人が増加している。それに伴い、昔からの集落と新興住宅地や新しい宅地が混在している。また、外国人も多く、かつ定住する外国人も増えてきている。

保護者の学校教育に対する関心・期待は大きく、学校行事やＰＴＡ活動には協力的である。スポーツ少年団の活動も活発である。

３　令和４年度の取組

学校教育目標　「自信をもち　自分の力を発揮する子」(岳洋学舎共通目標)

小さな成功体験を積み上げて、だれもが学びの楽しさを知る学校

(1)　自己肯定感を高めるために「学びの楽しさ」をさがして実感する PDCA サイクル学びの楽しさを「見つける１学期」「挑戦する２学期」「つなげる３学期」

(2) 温かな土壌づくりと徹底した危機管理で安心・安全な学校

「思いやり環境」による人権意識の向上と防災と衛生の日常化

(3)「学びの楽しさ」を体験する「活動つくり」

ア 児童会が中心になり、「学びの楽しさ」を実現できる学校像を共有する。

イ 児童発（例 R2「だれにでもぺこりあいさつ」）を東小の伝統にする。

(4)　「学びの楽しさ」を実感する「学び（授業）つくり」

ア つぶやきが生まれる学習問題と思考の整理による「学びの実感」の積み上げ

イ 「自分の考えをつくり表現する」ICT 活用

ウ 授業と意図的に結びつけた読書教育の充実

(5) 地域とともにある学校をめざす「岳洋学舎連携」

ア 総合的な学習の時間(チャレンジ)を中心にした地域参画意識の向上

イ「学びの庭」を意識した情報発信

４　児童の実態　成果と課題

(1)　「楽しい学校」の具体的姿を共有している

項目「学校が楽しい」「みんなで何かするのは楽しい」の強い肯定がともに向上した。「楽しい学校になってきたね」という言葉が日常的に聞こえている。修学旅行における６年生の感想「自分の意見が言えたから楽しかった」「譲ることも譲ってもらえることも大切だと気付いた」に代表されるように、「楽しさは自分たちでつくりあげる」という意識が高まっている。

これは、児童会が中心になって考えた「～すれば学校は楽しくなるはず」から発見した「楽しい学校の未来像　授業にさ参加、し姿勢も○(まる)、すすぐ反応、せ全員で、そ掃除もしゃべらん　さしすせそ」が、ペコチューブ「われら自慢の６年生さしすせそ授業」により、共有され、憧れと共に具体的な目標になった成果である。加えて、全校一斉に取り組んだ ICT 活用授業や子どものつぶやきを大切にした思考の整理などの授業の充実が、自己肯定感の向上につながっている。

(2)「思いやり環境」への意識が高まっている

項目「自分からあいさつをしている」「相手の名前にさんをつけている」の強い肯定が向上した。自分も相手も大切にした言動が「しっかりできている」と自信をもつ児童が増えている。地域の皆様からも「一時的なものではなく、いつでもあいさつができる学校になっている」という声をいただいている。

これは、岳洋学舎の目標を受けて、令和２年度に始まった児童発「ぺこりあいさつ」が、引き継がれて進化していることを表している。

さらに、「学校に信頼できることができる先生がいる」の肯定的評価が 90%を超え、強い肯定も向上している。児童だけでなく、子どもをとりまく全ての大人が、安心・安全な「思いやり環境」をめざしている成果である。

(3) 地域や社会の一員としての参画意識が向上している

令和２年度からの追加項目「地域や社会をよくするために何をしたらよいか考えることがある」の肯定的評価と強い肯定が向上した。

これは、総合的な学習の時間を中心に、企業や地域との連携を意図的・計画的に行った成果である。

(4) 自分と他者のよさや可能性を認識し、のばす必要がある

項目「授業に主体的に取り組んでいる」「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広めたりできていると思う」「家で予習・復習をしている」の肯定的評価が低下している。児童は、加速度を増す社会の変化に気づき、戸惑いや不安感を抱いている。複雑で予測困難な状況を前向きに受け止め、他者とともに未来を切りひらく主体性を向上させる必要がある。

	項　目 ★菊川市共通数値目標	令和３年度 肯定的	令和３年度 強い肯定	令和４年度 肯定的	令和４年度 強い肯定	R5 年度 目標値 (%)
自己肯定感	★学校が楽しい。	91.9	68.5	93.3	68.8	92
	★みんなで何かするのは楽しい。	96.8	82.9	96.2	83.7	95
	自分からあいさつをしている。	90.1	61.3	86.5	63.9	
	R5　進んであいさつしようとしている。					90
	相手の名前にさん付けしている。	95.0	72.1	94.7	82.7	90
学力	★授業に主体的に取り組んでいる。	93.7	49.8	86.5	44.2	88
	★授業がよくわかる。	91.9	54.3	90.9	55.3	90
	相手の考えを受け入れて温かく聞いている。	94.6	58.4	94.2	54.3	
	R5 相手の思いや考えをわかるまで聞こうとしている					90
	よりよい考えにするために、比べようとしている。					80
	★学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	89.6	49.8	75.0	39.4	80
	R3 授業で ICT を活用している。	97.7	ほぼ毎日 72.1			
	★R4〔１、２年生〕 授業では、コンピューターなどの ICT をどの程度使用したか。			週１回以上 96.7	ほぼ毎日 80.3	
	★R4〔３年生以上〕 ①授業でタブレットを使って調べ学習を行った。			週１回以上 94.6	ほぼ毎日 68.7	
	②授業でタブレットを使って自分の考えを表現したり、友達と意見の交流をしたりした。			週１回以上 88.4	ほぼ毎日 44.9	
	★R5 新〔全学年〕 授業で、コンピューターなどの ICT をどの程度使っているか。					週１回以上 90
	★R5 新〔３年生以上〕 ①学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC･タブレットなどの ICT 機器をどの程度使っているか。					週１回以上 90
	②学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC･タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っているか。					週１回以上 90
	③学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC･タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っているか。					週１回以上 90
	家で予習をしている。	71.9	39.8	62.0	31.7	70
	家で復習をしている。	83.2	59.0	79.8	47.6	80
連携	★地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	72.9	31.2	76.4	36.5	80
	★学校に、信頼することができる先生がいる。	88.7	69.4	94.2	72.6	90
	学校は積極的に情報発信している。（保護者）	96.4	46.7	97.1	41.8	90

５　令和５年度のめざす子供の姿

岳洋学舎学校教育目標（小笠東小学校重点目標）
「自信をもち　自分の力を発揮する子」
重点目標
「自分も　みんなも　ぐんぐんのびよう」

６　めざす子供の姿を実現するための学校の姿

(1) 自己肯定感を高める学校　〇岳洋学舎共通目標値
成果指標「学校が楽しい」と肯定的評価をする児童　〇92%以上
(2) 児童が主体的に学ぶ学校
成果指標「授業に主体的に取り組んでいる」と肯定的に評価する児童
〇88%以上
(3) 地域とともにある学校
成果指標「地域や学校をよくするために何をすべきかを考えることがある」
と肯定的評価をする児童　〇80%以上

７　令和５年度の具体的な取り組み

(1) 自分とみんなのよさや可能性を認めてのばすPDCAサイクル
ア 自分とみんなのよさや可能性を「見つける１学期」
イ 自分とみんなのよさや可能性を「ぐんぐんのばす２学期」
ウ 自分とみんなのよさや可能性を「バトンをつなぐ３学期」
(2) 温かな土壌づくりと徹底した危機管理で安心・安全な学校
ア「思いやり環境」による人権意識の向上
相手を尊重した呼び方や言葉遣い
整理整頓、椅子をしまう、衣服を畳む等気持ちのよい生活
わかりやすさを大切にした特別支援教育を基盤にした学校づくり
多様性を認め合う温かな人間関係
目の届かない時間と場所の確認で変化を見逃さない体制
いじめの兆候への即介入
「学校いじめ防止基本方針」に基づく迅速かつ適切な対応
イ 危機管理の日常化
「いざというとき」に発揮する廊下等の歩行　訓練の日常化
徹底した防犯体制(昇降口や体育間通路の開閉、受付の徹底等)
「新しい生活様式」の徹底による衛生管理
高所掲示や目の高さにある突起物など怪我や事故につながる危険箇所点検
(3)「自分とみんなのよさや可能性」を認識し、尊重し合う「活動つくり」
ア よさや可能性を見つけてのばしてバトンする方法を児童が考える。
イ 児童発「だれにでもぺこりあいさつ」を東小の伝統にして引き継ぐ。
ウ 主体的に協働して可能性をのばした喜びを見える形で実感する。
(4)「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的充実をめざす「学びつくり」
ア 児童自らが、学習の状況を把握し調整する主体的な学びに挑戦する。
イ 児童自らが、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」によって選択する情報活用能力を育成する。
ウ 本と人に触れる機会を計画的に設定する。
(5) 地域とともにある学校をめざす「岳洋学舎連携」
ア 総合的な学習の時間(チャレンジ)を中心にして地域参画意識を向上する。
イ「学びの庭」を意識した情報発信を続ける。